

令和3年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業)」
成果報告書

令和4年4月
一般財団法人全日本ろうあ連盟

本報告書は、スポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、一般財団法人全日本ろうあ連盟が実施した令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

【調査概要と目的】

＜①デフスポーツ啓発イベントを通した連携推進＞

当連盟傘下団体である各9ブロック（北海道・東北・関東・北信越・東海・近畿・中国・四国・九州）体育部に、JPCや地域の行政、障がい者スポーツ協会、障がい者スポーツ指導者協議会、地域ろう協会、デフスポーツ団体、地域企業などの関係団体と共に、デフスポーツについて関心や認知の向上を図るために市民向けの「デフスポーツ啓発イベント」の実施を働きかけ、地域における障害者スポーツのネットワーク作りの支援を図る。

また、今後の地域におけるデフスポーツ啓発の参考になるよう、今回のイベントを実施した結果及び好事例を成果報告書に載せ、デフスポーツにおける視覚的情報保障の様子を撮影した動画やパンフレットとともに当連盟ホームページで公開し、多くの障害者スポーツ団体に情報提供する。

＜②デフスポーツ団体体制整備支援及び情報提供の実施＞

当連盟スポーツ委員会とJOCが協働して、デフリンピック種目（※）のきこえるNFとデフスポーツ団体の連携支援を図るとともに、デフスポーツ団体の体制整備状況を一覧にまとめることする。

また、各デフスポーツ団体の体制整備やきこえるNFとの連携に関する好事例を収集し、成果報告書に載せるとともに当連盟ホームページで公開することで、きこえるNFやデフスポーツ団体へ情報提供を行う。（※ 陸上、水泳、卓球、サッカー、バレー、ビーチバレー、ゴルフ、空手、柔道、バドミントン、バスケ、ボウリング、自転車、スキー、テニスの15競技）

実 施 日 程 表（実 績）

実施時期	実施事項	
	1. デフスポーツ啓発イベントを通した連携推進	2. デフスポーツ団体体制整備支援及び情報提供の実施
11月	12日 委託契約	
12月	21日 第1回担当者会議	
1月		26日 デフスポーツ団体会議 27日～28日 デフスポーツ団体ヒアリング
2月	16日 第2回担当者会議 20日 デフリンピックフェスティバル in 北海道（中止） 20日 デフリンピックフェスティバル in 石川（中止）	3日～10日 デフスポーツ団体ヒアリング 8日 JOC面談
3月	6日 デフリンピックフェスティバル in 多摩市（中止） 25日 デフリンピックフェスティバル in 東京（都議事堂） デフスポーツ啓発パンフ作成	ガバナンスコード調査とりまとめ 事業委託成果報告書作成（製本）、完了報告書（会計等）提出

事業実績の説明

(1) デフスポーツ啓発イベントを通した連携推進

1. デフスポーツ啓発イベント担当者会議

第1回

開催日時：2021年12月21日（火）19時00分～21時00分

方 法：オンライン（ZOOMミーティング）

出席者：スポーツ委員会委員長 小椋 武夫

スポーツ委員会事務局長 嶋本 恭規

ブロック体育部長、デフスポーツ団体代表、事務局 計 60名

議題：1. 事業概要の確認

2. デフスポーツ啓発イベント開催ブロック選定

総括：デフスポーツ啓発イベントとして、「デフリンピックフェスティバル」を北海道（札幌市）、北信越（石川県金沢市）、関東（東京都多摩市）で開催することを決定した。いずれもパラスポーツ体験、パラリンピアンとデフリンピアンのトークショーを中心に障害者スポーツに興味のある方を対象に呼びかけることを決定した。

第2回

開催日時：2022年2月16日（火）19時00分～21時00分

方 法：オンライン（ZOOMミーティング）

出席者：スポーツ委員会委員長 小椋 武夫

スポーツ委員会事務局長 嶋本 恭規

ブロック体育部長、デフスポーツ団体代表、事務局 計 60名

議題：1. デフリンピックフェスティバル開催準備について

総括：2022年1月末からのオミクロン株再流行に伴うまん延防止等重点措置のために、他県から多く集まる本イベントの開催を危ぶむ声が増えてきたため、3か所いずれも中止という苦渋の決断を行った。そのため、それまでにかかった費用、中止の連絡など今後の事務手続きについて、確認を行った。

また、中止になった代わりに情報保障の様子を中心にまとめたデフスポーツ啓発パンフレット（別紙1）を作成し、関係団体に配布することで、より多くの方々にデフスポーツを知ってもらうことを確認した。



きこえない選手

の未来のために

一般の競技大会に参加したときは?

きこえない選手の不安を無くすために配慮しましょう

さらなる競技力の向上を目指して、きこえない選手が一般的な競技大会に参加することがよくあります。しかし、きこえない選手は大会における情報保障・配慮がまだ多くないのが現状で不安に感じています。例えば、選手の名前や選手登録の手順、競技のルール等がわからず不安な状況です。六合の運営組織はきこえない選手が参加したときは、情報伝達や配慮を行ってください。また、大会出場や召喚書に配慮してほしいという願を設けてみてはどうでしょうか?

学校体育や部活動に参加したときは?

きこえない学生もスポーツを楽しめる環境を

きこえない学生が体育授業や部活動に参加をすとときに困る場面の一つがミニティップです。特に団体競技では、ミニゲームや戦略等の指示を受けたり、チームメイト同士で話し合います。

しかし、きこえないどついていけなかつたり、また意図をつかむことができません。これでは楽しいスポーツでも、きこえない学生にとっては苦痛なものになってしまいます。

ホワイトボードを使い、指示の内容を具体的に文字で示す等、視覚的な方法でちゃんと伝わるようにする等、視覚的な方法で説明をすることが大切です。

きこえない選手の競技力向上のためには

指導の際には視覚的な工夫を

実際、競技力向上に音が大きな役割を持つことが多いです。例えばプロ野球選手は打球を走らせる音で音速を測定する等、大きな判断になります。「耳」が重要な競技で自分のスコアの算出も難しくなるといいます。

競技中で発生する音は競技力の向上に欠かせない重要な要素です。それがきこえないということは競技力向上の最大の要因になります。こえない選手に指導する際には、スマートやタブレット等で動画を撮影して、それを見ながら指導する等、視覚的な工夫が必要です。

指導するときに気をつけたいことは?

動作説明はそれぞれ区切って
交互にしましょう

コーチが指導する際、実際に実演しながら説明することができます。しかし、動作と説明が同時にだと、きこえない選手はどうしたらを注意してみればよいのかわからず理解できないまま終わってしまうことがあります。

指導の意図が伝わっていないと、競技力向上につながらません。

まず、説明を文字で図で示し、次に動作を伝説しておせる。そしてまた文字や図で説明をするかのように、動作と説明は区切って交互に行なう良いでしょう。

＜情報保障の様子をまとめたデフスポーツ啓発パンフ＞

参加者 (61)

島根県 井上隆

日本デフドミントン協会 中...

日本ろう自転車競技協会 &...

日本ろう者サッカー協会 浜...

梅村正樹

飛田

副島聰

和歌山 土山

Kana Kitai

OSUGI Yutaka

デフオリン 野中

まちやる

宮城体育部長 伊藤晃

熊本

松下哲也

全日本ろうあ連盟

鳥取県岡崎雅人

東海ブロック 爰知県 新長

奈良 体育部長 生野輝明

日本デフリオフ協会 深田

日本ろう自転車競技協会 早瀬...

福井県ろうあ協会スポーツ委員...

北海道ろうあ連盟 熊谷晃

本部事務所 3 全日本ろうあ連盟

＜デフスポーツ啓発イベント担当者会議の様子＞

2. デフスポーツ啓発イベントの実施

■ 「デフリンピックフェスティバル in 北海道」

開催日時：2022年2月20日（日）13時00分～16時30分

会場：かでる2.7（北海道立道民活動センター）

後援：札幌市

一般社団法人札幌市障がい者スポーツ協会

公益社団法人札幌聴覚障害者協会

協 力：北海道
　　公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会
　　公益社団法人北海道ろうあ連盟スポーツ委員会

内 容：① 障がい者スポーツ体験（ボッチャ体験）
　　　　講師：北海道ボッチャ協会 理事長 樋口幸治氏
　　② 講演『デフスポーツそしてデフリンピックって？』
　　　　講師：全日本ろうあ連盟デフリンピック準備室
　　③ パネルディスカッション
　　　　パネリスト：（一社）日本ろう者スキー協会
　　　　　　　　名誉副会長兼相談役 伏見景子氏
　　　　　　　　北海道新聞社
　　　　　　　　パラスポーツアドバイザー 永瀬充氏

■ 「デフリンピックフェスティバル in 石川」

開催日時：2022年2月20日（日）13時00分～16時30分

会 場：金沢商工会議所1Fホール

主 管：社会福祉法人石川県聴覚障害者協会

後 援：石川県

協 力：石川県障害者スポーツ協会
　　　　北信越ろうあ連盟
　　　　北信越ろうあ連盟スポーツ委員会北海道

内 容：① 講演『デフスポーツそしてデフリンピックって？』
　　　　講師：全日本ろうあ連盟スポーツ委員会
　　② パネルディスカッション
　　　　報告：『デフスポーツについて』
　　　　講師：門脇 翠氏（一社）日本デフ陸上競技協会 副会長
　　　　パネリスト：石川県聴覚障害者協会（デフアスリート）
　　　　　　　門脇 翠氏（一社）日本デフ陸上競技協会 副会長
　　　　　　　森光佑矢氏（一社）日本デフ陸上競技協会／
　　　　　　　SMBC 日興証券株式会社
　　　　　　　土倉仁菜氏（一社）日本ろうあ者卓球協会
　　　　　　　新田照予氏 デフリンピアン
　　　　　　　（ローマ大会バドミントン競技）
　　　　　　　嶺藤 至氏 石川デフブルースパークス
　　　　　　　（バスケットボール競技）
　　③ 障がい者スポーツ体験（ボッチャ体験）
　　　　協力：石川県ボッチャ協会

■ 「デフリンピックフェスティバル in 多摩市」

開催日時：2022年3月6日（日）13時00分～16時30分

会 場：多摩市総合福祉センター

主 管：多摩市聴覚障害者協会
 協 力：多摩市
 多摩市社会福祉協議会
 東京都障害者スポーツ協会
 東京都聴覚障害者連盟
 関東ろう連盟体育部

内 容：① 障がい者スポーツ（デフスポーツ、パラスポーツ）体験
 ② 講演『デフスポーツとデフリンピック（仮題）』
 ③ パネルディスカッション（デフアスリート、アスリート各1名）
 ※ 不屈の精神で挑戦を続けるデフアスリートやパラアスリートの姿勢とその言葉から、夢を持つことの大切さや挑戦する気持ち、モチベーションコントロール、壁を乗り越える秘訣を学ぶ

 <p>デフリンピック フェスティバル in 北海道</p> <p>2022年2月20日(日) 13:00 ~ 16:30</p> <p>会場：かでる 2.7 (北海道立道民活動センター)820研修室</p> <p>内 容：情報保障あり（手話言語通訳、要約筆記）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●障がい者スポーツ体験（ボッチャ体験） 講師：北海道ボッチャ協会 理事長 桶口幸治氏 ●講演『デフスポーツそしてデフリンピックって？』 講師：全日本ろうあ連盟デフリンピック準備室 ●パネルディスカッション パネリスト： ★（一社）日本ろう者スキー協会 名答副会長兼相談役 伏見景子氏 ★北海道新聞社 パラスポーツアドバイザー 永瀬充氏 <p>申込方法： 2月10日(木)までに右のQRコードからお申し込んでください。なお、会場収容人数の上限50名に達した時点で申込受付を終了いたします。</p> <p>お問い合わせ先： 全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 e-mail : deafest01@jfd.or.jp</p> <p>主催：一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会</p>	 <p>デフリンピック フェスティバル in 石川</p> <p>2022年2月20日(日) 13:00 ~ 16:30</p> <p>会場：金沢商工会議所 1Fホール</p> <p>内 容：情報保障あり（手話言語通訳、要約筆記）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●講演『デフスポーツそしてデフリンピックって？』 講師：全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 ●パネルディスカッション ★報道：『デフスポーツについて』 講師：門脇 翠氏（一社）日本デフ陸上競技協会 副会長 ●パネリスト：石川県聴覚障害者協会（デフアスリート） 門脇 翠氏（一社）日本デフ陸上競技協会 副会長 森光 佑矢氏（一社）日本デフ陸上競技協会/SMBC日興証券株式会社 土倉 仁菜氏（一社）日本ろうあ者スポーツ協会 新田 照子氏 デフリンピアン（ローリングバドミントン競技） 嶺藤 至氏 石川デフフルースバース（バッケットボール競技） ●障がい者スポーツ体験（ボッチャ体験） 協力：石川県ボッチャ協会 <p>申込方法： 2月10日(木)までに右のQRコードからお申し込んでください。なお、会場収容人数の上限100名に達した時点で申込受付を終了いたします。</p> <p>お問い合わせ先： 全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 e-mail : deafest02@jfd.or.jp</p> <p>主催：一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会</p>
<p>デフリンピック・フェスティバル in 北海道開催案内</p>	<p>デフリンピック・フェスティバル in 石川開催案内</p>

■ 「デフリンピックフェスティバル in 東京（都庁）」

開催日時：2022年3月25日（金）17時00分～18時30分

会 場：東京都議会議事堂、オンライン併催

主 催：全日本ろうあ連盟スポーツ委員会、東京都聴覚障害者連盟

協 力：日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会、関東ろうあ連盟、東京都障害者スポーツ協会、東京都人権啓発センター、東京都医師会、東京都耳鼻咽喉科医会、東京都手話通訳問題研究会、東京都手

話サークル連絡協議会、東京飛翔ライオンズクラブ
多摩市社会福祉協議会

内 容：① 来賓挨拶

岸田文雄総理大臣のメッセージ

東京都副知事挨拶

国際ろう者スポーツ委員会会長 グスタボ・ペラツツオーロ
氏

(ビデオメッセージ)

② 基調報告『多種多様な共生社会を目指して』

デフリンピック準備室室長 久松 三二

③ 第24回夏季デフリンピック・ブラジル大会について
(参加選手からの挨拶)

山田 真樹氏 (一般社団法人日本デフ陸上競技協会)

亀澤 理穂氏 (一般社団法人日本ろうあ者卓球協会)

③ トークショー

コーディネーター：薬師寺みちよ先生

初瀬 勇輔氏 (パラ柔道)

早瀬 久美氏 (デフ自転車)

北澤 豪氏 (元サッカー日本代表)



岸田文雄総理大臣のメッセージ

会場の様子



トークショー、デフリンピアンの皆様

「観る会」開催 (オンライン視聴の様子)

(2) デフスポーツ団体体制整備支援及び情報提供の実施

1. デフスポーツ団体会議

開催日時：2022年1月26日（水）19時00分～21時00分

方 法：オンライン（ZOOMミーティング）

出席者：スポーツ委員会委員長 小椋 武夫

スポーツ委員会事務局長 嶋本 恭規

デフスポーツ団体代表、事務局

議 題：1. 事業内容説明

2. ヒアリング実施への協力依頼

総 括： デフスポーツ団体の課題をとりまとめるために、下記の2点についてヒアリングを行うことを確認した。ヒアリング結果を成果報告書にて取りまとめたあと、関係団体に配布することを確認した。

① きこえるNFとの連携状況の確認

② ガバナンスコードの実施状況及び

ガバナンスコード遵守のための課題

2. デフスポーツ団体ガバナンスコード進捗状況調査

調査内容：

デフリンピック実施競技のうち、国内にデフ競技団体がある15団体について、デフ競技団体の課題を確認するために、ガバナンスコードの実施状況を確認した。

なおこのうち、バスケと空手は協会体制が立ち上がったばかりであり、ガバナンスコードの自己評価をしておらず、残りの13団体（87%）の進捗状況をまとめたものが別紙2である。

これは、競技団体側の自己評価をもとにした対応状況の進捗確認が目的であり、競技団体のガバナンスコードの質や内容を評価するものではないことや、点数についても、デフスポーツ全体の進捗の把握のためであり、個々のデフ競技団体を比較、評価するものではないことにご留意いただきたい。

良かった点：

・長年にわたるJPCからの指導により、規定整備、情報開示、財務・経理に関しては改善されている

現在の課題：

- ・組織運営に関わる人材不足
- ・会員数が少ないところは、役員人材も少なく引継ぎが難しい状況。
- ・より適切な支援を受けるために、手話言語でコミュニケーションが取れ、デフスポーツに見識のある弁護士、公認会計士、学識経験者等の有識者の発掘育成が必要
- ・有事のための危機管理体制整備を策定していない団体が多い

今後の方針：

- ・長期計画が見えず、デフスポーツ全体のビジョン、ミッションを立てて

各競技団体でそれにあわせた長期計画を作成することが喫緊の課題

- ・審判関連は、きこえる競技団体から派遣してもらう形になっているが、デフの特性を知り、手話言語ができる審判を養成していくことで、障害者スポーツへの参画機会が増えることが考えられる。
- ・きこえる NF と組織的な関連があるのは、4 団体（サッカー、卓球、柔道、テニス）のみであり、今後、それぞれの競技において、運営ノウハウを持つきこえる NF との共同体制構築が必要になる。そのため、2022 年度は当委員会にてすべてのきこえる NF と面談を行い、デフスポーツ団体とつないでいく。

3. デフスポーツ団体ヒアリング実施

1月 27 日 (木) 16:00～17:00	一般社団法人日本デフ陸上競技協会
1月 28 日 (木) 9:30～10:30	一般社団法人日本デフバレーボール協会
2月 3 日 (木) 18:00～19:00	一般社団法人日本ろう自転車競技協会
2月 4 日 (金) 10:00～11:00	一般社団法人日本ろうあ者卓球協会
2月 4 日 (金) 11:00～12:00	特定非営利活動法人日本デフバスケットボール協会
2月 4 日 (金) 18:00～19:00	一般社団法人日本ろう柔道協会
2月 4 日 (金) 19:00～20:00	特定非営利活動法人日本デフゴルフ協会
2月 4 日 (金) 20:00～21:00	一般社団法人日本ろう空手道連盟
2月 7 日 (月) 10:00～11:00	一般社団法人日本デフセーリング協会
2月 7 日 (月) 11:00～12:00	一般社団法人日本デフビーチバレーボール協会
2月 7 日 (月) 18:00～19:00	一般社団法人日本ろう者水泳協会
2月 7 日 (月) 19:00～20:00	一般社団法人日本ろう者サッカー協会
2月 7 日 (月) 20:00～21:00	一般社団法人日本ろう者テニス協会
2月 8 日 (火) 19:00～20:00	日本デフオリエンテーリング協会
2月 8 日 (火) 20:00～21:00	一般社団法人日本ろう者ボウリング協会
2月 10 日 (木) 11:00～12:00	一般社団法人日本デフバドミントン協会

4. きこえる NF との連携について

開催日時：2022 年 2 月 8 日 (火) 16 時 30 分～17 時 30 分

場 所：JOC 会議室

内 容：今後、デフスポーツ団体ときこえる競技団体の連携をすすめていくために必要な支援をお願いした。連携状況の現状としては、今年より、全柔連内に視覚障がい者・ろう者柔道連携部会が設立されたことが好事例として挙げられる。他にも一般社団法人日本ろうあ者卓球協会は、以前より日本卓球協会に加盟している。このような連携を増やしていくために必要なことを今後検討していく。

以上

<別紙 1>デフスポーツ啓発パンフ

<別紙 2>デフスポーツ団体ガバナンスコード進捗状況一覧

<別紙 3>デフスポーツ団体ガバナンスコード自己評価



デフリンピック

Deaflympics

ろう者の
オリンピック

- ・デフリンピックとは
- ・応援するためには
- ・視覚的情報保障とは



一般財団法人全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会



デフリンピック (Deaflympics) とは？

きこえない選手のための国際的な
スポーツ大会です。

「Deaf」は英語できこえない人という意味です。オリンピックと同じように4年に1度、夏季大会と冬季大会が2年ごとに交互に開催されます。第1回夏季大会は1924年にフランスで開かれました。競技ルールはオリンピックと同じルールですが、きこえない選手のための視覚的保障がなされた競技環境があることがデフリンピックの特徴です。



「世界一の高みをめざして夢咲かせよう」
第23回夏季デフリンピック サムスン2017
(2017年7月18日から30日 トルコ・サムスン市で開催)

ってなに？

視覚的保障って何？

音や審判の合図がきこえないという、競技上、選手にとって不利な状況を、視覚的に補うことです。

きこえない選手はスタートーの音や審判の笛がきこえないために、プレーする上で、大きなハンデとなってしまいます。そのためフラッシュランプや旗などで競技上に必要な音声や審判の合図を知らせるなど、視覚的に情報が保障された競技環境が必要になります。

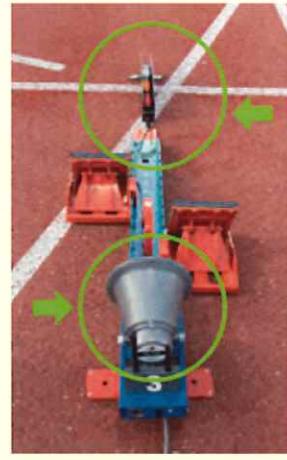


サッカー競技では主審もフラッグを

デフリンピックでは、陸上競技や水泳競技のスタートーの音は、フラッシュランプを使って選手にスタートを知らせています。

サッカーやラクビーでは、審判が笛を吹くとともに旗または片手をあげることで反則などが起きたことを選手に知らせます。また、バスケットボールやハンドボール等、さまざまな競技でフラッシュランプ等を活用しています。

このような、さまざまな視覚的な工夫をした競技環境がデフリンピックでは整えられているのです。



陸上競技のスタートランプと音響装置



空手競技ではランプを設置



水泳競技のスタートランプ

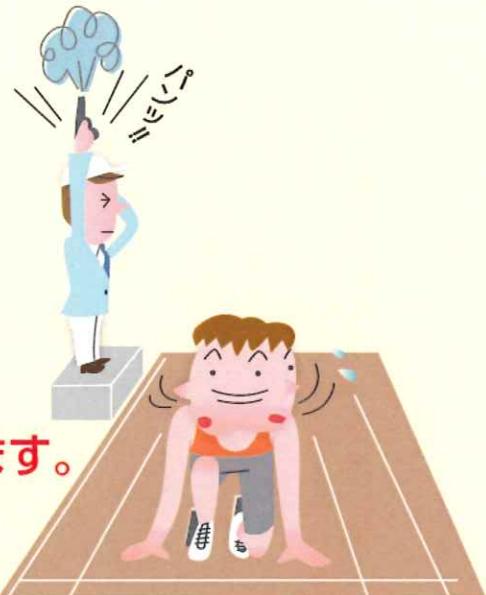
きこえないことは スポーツをする上で ハンデなの?

きこえないことは、
“目に見えない障害”といわれています。

聴覚障害があることで、バランス感覚の異常、
得られる情報量の少なさなどから、練習や競技

上できこえる人と比べて不利な面があることが研究で報告されています。例えば、団体スポーツではチームメイト同士の声がけ等で判断し、次への動きをとる場面が多いですが、それがきこえないと難しく、常にチームメイトとのアイコンタクトが必要です。さらに、個人スポーツでは、競技中の風の音や打球音、競技用具の音なども判断材料となることがあります、それがきこえない選手にとっては1つのハンデです。

このように、競技上における「目に見えないハンデ」に対する視覚的な情報保障や手話言語によるコミュニケーションが必要だからこそ、きこえない選手同士で競技をすることに意義があるのです。



どのような人が出場できるの?

裸耳状態での聴力損失が55デシベル以上で、定められた出場条件を満たした選手が出場資格を有します。

補聴器または人工内耳を外した状態で、きこえが良い方の耳の平均が55デシベル以上であり、各国のろう者スポーツ協会(日本は全日本ろうあ連盟)の登録者のうち、



国内のデフスポーツ競技団体ごとに行われる選考競技会にて、出場条件(記録、順位など)を満たした選手に出場資格が与えられます。

また、競技会場に入ったら選手たちは試合や練習の際、補聴器等を身につけることは禁止されています。これは、選手同士がきこえない立場でプレーするという公平性の観点によるものです。

【参考】音の大きさはデシベル(dB)という単位により表し、数字が大きくなるほど音が大きいことを意味します。聴力レベルの目安としては、60dBは普通の話し声、70dBは掃除機の音、100dB以上で車のクラクションやジェット機の音がきき取れないと言われています。

どのような競技があるの?

夏季大会と冬季大会で以下のものがあります。

■夏季大会:(サムスン2017デフリンピックの競技)

陸上・バドミントン・バスケットボール・ビーチバレーボール・ボウリング・自転車・サッカー・ゴルフ・ハンドボール・柔道・空手・マウンテンバイク・オリエンテーリング・射撃・水泳・卓球・テコンドー・テニス・バレーボール・レスリング(フリースタイル、グレコローマン)

■冬季大会:(ヴァルテッリーナ2019デフリンピックの競技)

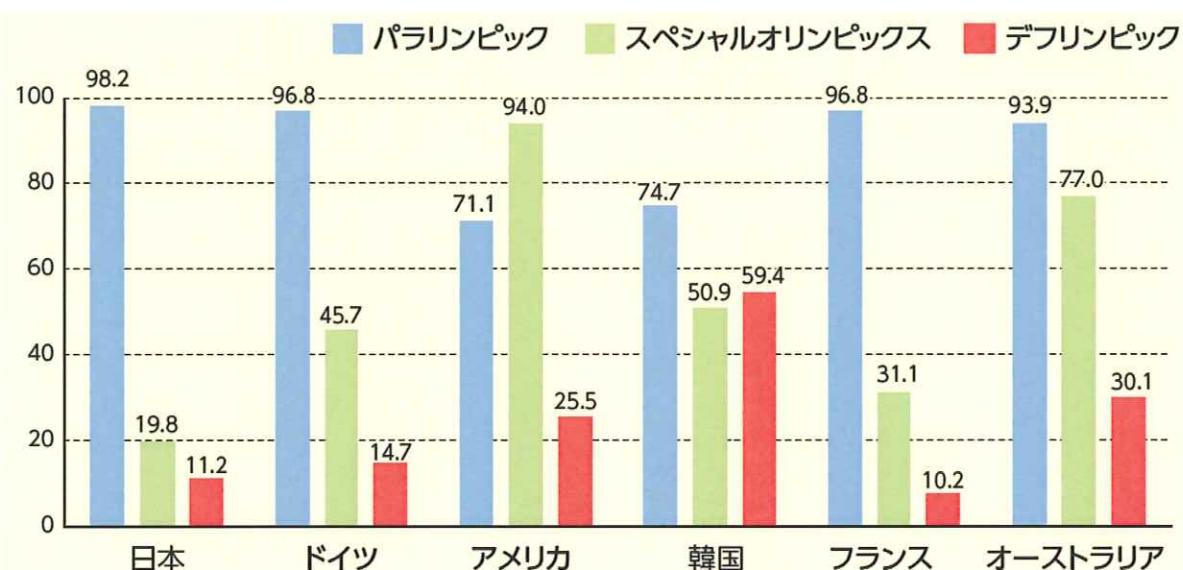
アルペンスキー・クロスカントリースキー・スノーボード・カーリング・アイスホッケー・チェス

※青文字は国内にデフスポーツ競技団体があります(2022年1月現在)



デフリンピックは どのくらい知られている?

デフリンピック コラム



2014年に日本財団パラリンピック研究会が行った調査結果では、国内でのデフリンピックの認知度は11.2%です。2006年に内閣府が調査したときは2.8%だったのと、それと比べるとやや認知度は上がりました。

しかし、パラリンピックの認知度98.2%と比べるとまだ低いのが現状です。

なお、パラリンピックにはきこえない人の競技種目がないため、出場できません。

【参考】・日本財団パラリンピック研究会調査:国内外一般社会でのパラリンピックに関する認知と関心 調査結果報告(2014):

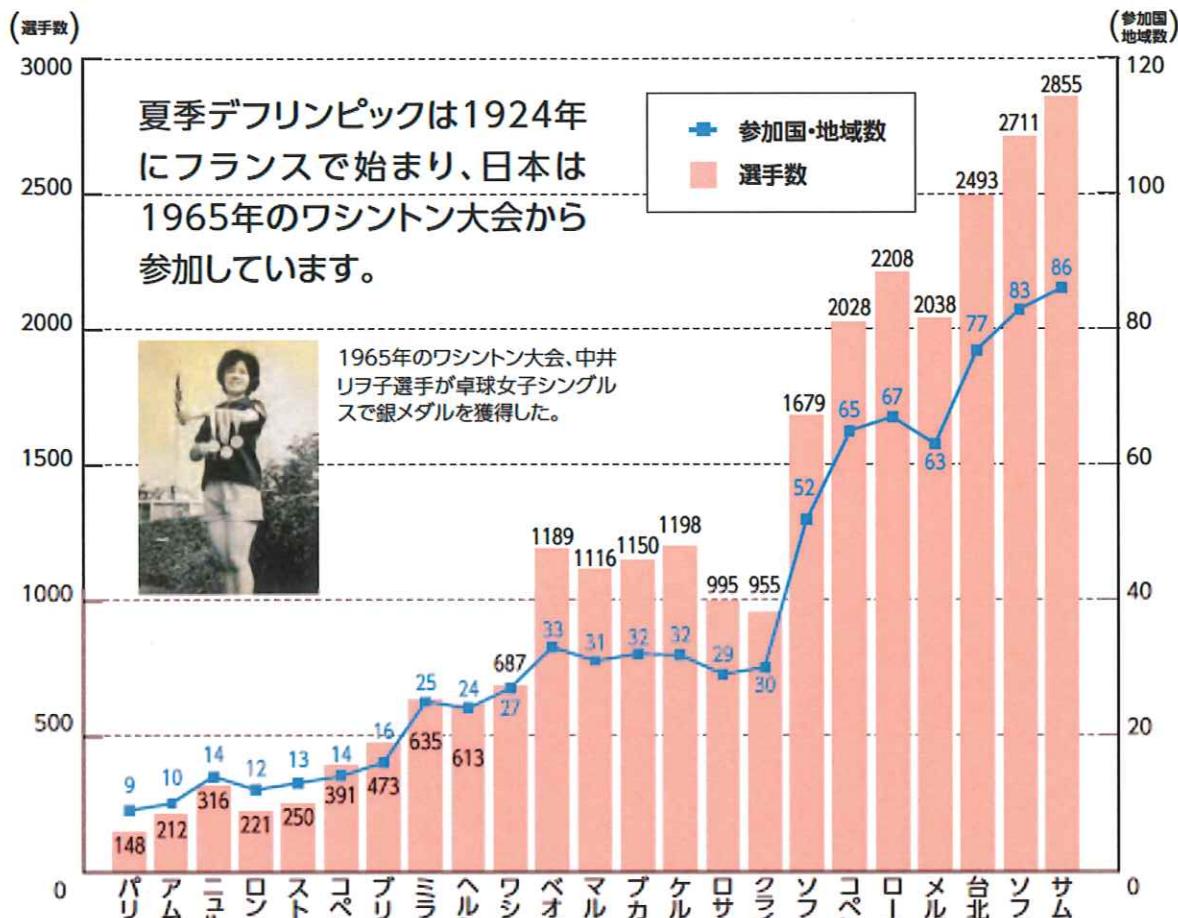
http://para.tokyo/doc/survey201411_2.pdf

・内閣府(2006):平成18年度障害者の社会参加促進等に関する国際比較調査



デフリンピック

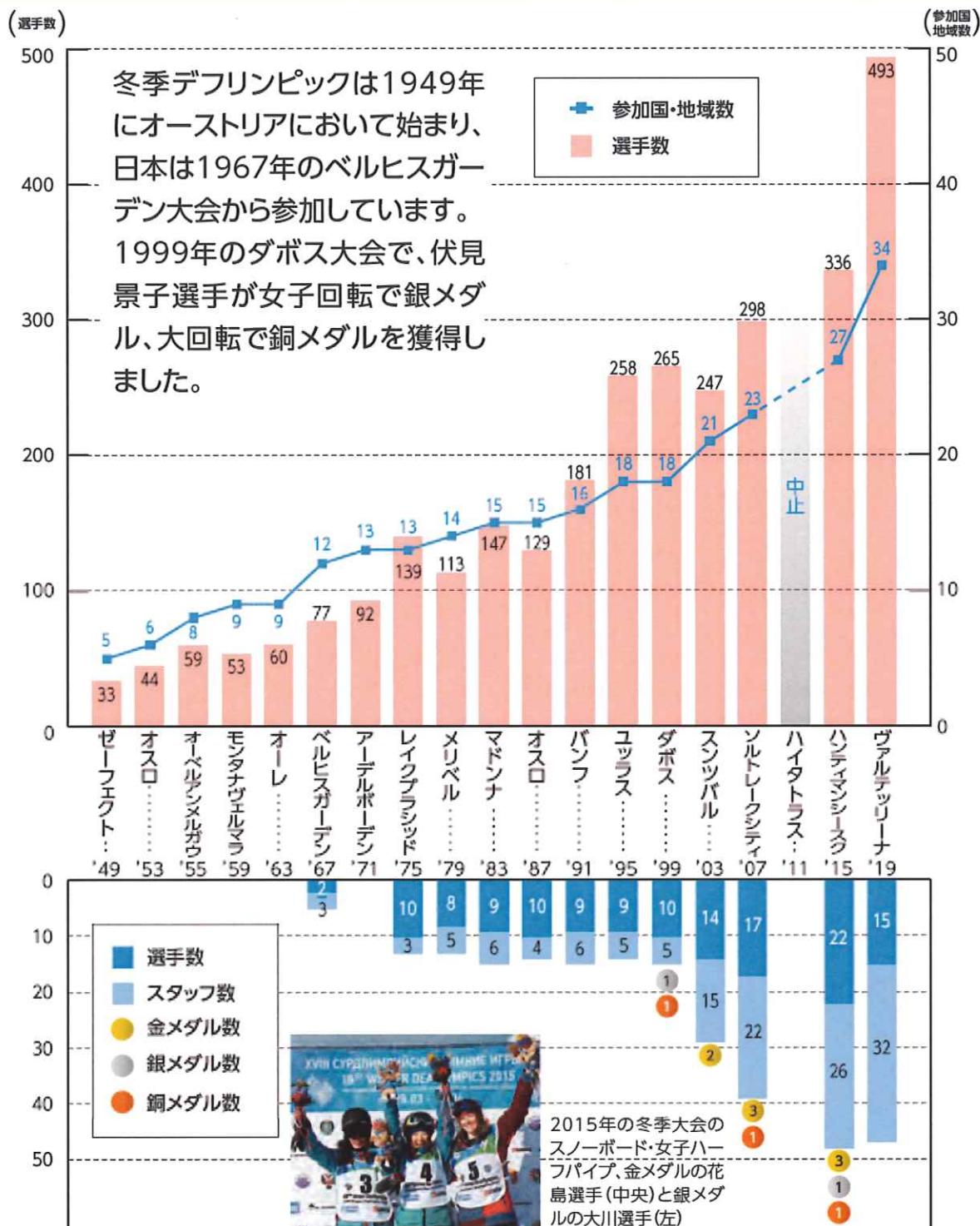
■夏季デフリンピック



の歴史



■冬季デフリンピック



デフリンピック

デフリンピックに どうやって出場できるの?

以下のような流れで、選手として出場できます。



STEP
1

デフリンピックの 情報を得る

- 学校での部活動で顧問から情報を受ける
- ろうのスポーツ仲間との出会いなど、色々な背景があります

STEP
4

各競技団体が 定める強化指定選手の 条件をクリア

STEP
2

団体に連絡をとる

自分が得意とする競技種目(デフリンピック採用種目のなかで)のデフスポーツ競技団体や自分がいる都道府県ろう協会に相談する

※国内にどのような団体があるのかについての情報が載っています!

STEP
5

強化指定選手 として登録

デフリンピックに向けた
強化合宿に参加

STEP
3

競技団体が実施する 合宿もしくは大会に 参加する

STEP
6

日本代表選出、 デフリンピック出場

に参加するには？

どうやって応援できるの？

現地やHPのライブ放送で応援できます。

①デフリンピック応援ツアーに参加して現地で応援！

旅行会社が企画する応援ツアーに参加して、現地で応援してみませんか。



②現地まで行けない…そんなときは！

- 大会公式HP(英語)／大会全体の情報はコチラをチェック！サムスン大会ではライブ放送が行われました。
- 日本選手団特設サイト／日本選手の試合スケジュールや結果を載せています。
- デフスポーツ団体HP／各競技団体のHPではその競技の詳しい報告がご覧になります。

上記へはこちらのリンク集ページへアクセス！

<https://www.jfd.or.jp/sc/deaflympics>

デフリンピック
リンク集ページQRコード



どのような支援があるの？

まずはデフリンピック知名度UPにご協力ください！

デフリンピックはパラリンピックより認知度がはるかに低く、スポンサーが少ないため、経済的負担が大きかったり、遠征などで職場での休暇が取りにくいなどといった課題があります。

①デフリンピックグッズを買おう・使おう！

グッズ売り上げによる収益は、日本代表団派遣のために使われます。



②デフリンピックをフェイスブックやツイッター等のSNSで発信しよう！

グッズの写真や選手のこと、また「デフリンピックって知ってる？」など発信して、デフリンピックを広めてください。

③寄付をしよう！

個人、法人を問わず広く皆様からのご支援をお願いしています。

<http://www.jfd.or.jp/about/shienkifu>

支援・寄付金
受付のページQRコード



デフリンピック

デフリンピアンに聞いてみました!!

デフリンピックに出場すると、何がどう変わるのでしょうか。
出場後の意識の変化を中心に聞いてみました。

- 出場したデフリンピック／競技
- ①デフリンピックはどんなところ？
- ②デフリンピックに出場して自分の中で、変わったところは？

藤原 慧

Satoi FUJIHARA

●2017サムスン大会出場／水泳競技

- ①それまではきこえる人の大会にしか参加したことのなかった私にとっては、きこえない私自身をオープンにし、私の存在を最大限にアピールできる場所でした。
- ②それまでは周りの目を気にしていたため、手話言語はできるだけ使いたくないと思っていました。しかし、デフリンピックをきっかけに手話言語はきこえない人にとって大切な言語だと気づき、今、手話言語を勉強中です。



蓑原 由加利

Yukari MINOHARA

●2009台北大会／バスケットボール競技

2013ソフィア大会、2017サムスン大会／自転車競技

- ①テレビで見たオリンピックとパラリンピックの光景と全く同じです！世界から集まるデフ強豪アスリート達が最高のパフォーマンスを出し、自分の結果も残せる私にとってとても貴重な場です。
- ②これで3度目の出場ですが、今大会でようやく自転車競技でメダルを獲得することができました。自己意識を高めることができるようにになったのは、チームの仲間とライバルである海外の強豪選手のおかげです！



田井 小百合

Sayuri TAI

●2013ソフィア大会、2017サムスン大会／

陸上競技(100mハードル)

- ①自分らしくいられる最高の場所。デフリンピック独自の競技環境、そして手話言語やジェスチャーで他国の人々と友好を深められる、独特かつとても魅力的な競技大会だと思います。
- ②自分の障害に対してより前向きになりました。すばらしい経験をもっと味わいたいとも思ったし、何らかの形で今後活躍が期待される若い選手の力になりたいと感じています。



に参加した人たち

日本選手団本部のお仕事

選手たちがデフリンピックという大舞台で輝けるよう、選手団本部は連日、手厚いサポートで彼らを支えています。

サムスンデフリンピックでは、20名のスタッフがそれぞれの専門的な知識や技術を活かして選手たちを裏からサポートしました。



団長

選手団はさまざまな競技団体から選ばれた選手やスタッフです。この200人近くの選手やスタッフが最大のパフォーマンスができるよう、また日本の代表として誇りを持ち、心が一つになるようまとめています。

総務

選手たちが選手村へ入村する前から何度も現地視察を行い、準備を整えます。大会が始まってからは、競技結果や選手たちの活躍を日本に向けて発信します。また、選手たちが快適な競技生活を送れるよう、サポートを行います。

医師・トレーナー

朝早くから遅くまで選手たちのメディカル面をチェックし、選手たちの体調管理を行います。選手にケガがあれば、競技会場に駆けつけたり、ドーピング検査を受けるときは付き添うなど、24時間気苦労が絶えません。

手話言語通訳・現地語通訳

医師やトレーナーと選手のコミュニケーションを手話言語通訳で支援します。また、現地のボランティアや関係機関との話し合いや資料を確認する際、日本語に通訳する人も必要です。

輸送サポート

選手団の出国、選手村入りから、毎日の競技会場移動、選手村へ運び込む競技用品や物品などの管理や輸送を支えます。

第23回 夏季デフリンピック競技大会

第23回夏季デフリンピックは、トルコのサムスン市で2017年に開催されました。日本からは177名(選手108名、スタッフ69名)の選手団を派遣しました。日本選手団の大活躍により、過去最高のメダル獲得数27個(金6、銀9、銅12)となりました。

デフリン 活躍した

水泳 Swimming

藤原 慧 (ふじはら さとい)

Satoi FUJIHARA

サムスンでの成績 金 3 銀 4 銅 2

- 金 男子400m自由形 銀 男子4×200m
- 金 男子1500m自由形 自由形リレー
世界新記録 銀 男子4×100mメドレー
- 金 男子400m個人メドレー 銀 男子200m個人メドレー
- 銀 男子200mバタフライ 銀 男子4×100m
銅 男子200m自由形 自由形リレー



陸上 Athletics



山田 真樹 (やまだ まき)

Maki YAMADA

サムスンでの成績 金 2 銀 1

- 金 男子200m 金 男子4×100mリレー
- 銀 男子400m 銀

バレー Volleyball



宇賀耶 早紀 (うがや さき)

Saki UGAYA

サムスンでの成績 金 女子バレー金メダル

2度目の出場。今大会キャプテンを努め、全試合ストレート勝ち、4大会ぶり2度目の金メダルへ導きました。

ピックで選手たち

第18回冬季デフリンピック競技大会

第18回冬季デフリンピックは、ロシアのハンティ・マンシースク及びマグニトゴルスクで2015年に開催されました。日本からは48名（選手22名、スタッフ26名）の選手団を派遣しました。そして、冬季デフリンピックとして過去最高のメダル獲得数5個（金3、銀1、銅1）となりました。

スノーボード・パラレル



原田 上 (はらだ のぼる)

Noboru HARADA

ハンティ・マンシースクでの成績 金 2

金 パラレル大回転種目 金 パラレル回転

スノーボード・男子ハーフパイプ



津久井 康友 (つくい やすとも)

Yasutomo TSUKUI

ハンティ・マンシースクでの成績 銅 1

銅 男子ハーフパイプ

スノーボード・女子ハーフパイプ



大川 摩耶子

(おおかわ まやこ)

Mayako OHKAWA

ハンティ・マンシースクでの成績

銀 1

銀 女子ハーフパイプ

花島 良子

(はなしま りょうこ)

Ryoko HANASHIMA

ハンティ・マンシースクでの成績

金 1

金 女子ハーフパイプ

きこえない選手

一般の競技大会に参加したときは?

きこえない選手の不安を 無くすために配慮をしましょう

さらなる競技力の向上を目指して、きこえない選手が一般の競技大会に参加することがよくあります。しかし、きこえない選手は大会における情報保障や配慮があるかどうかと、いつも不安に感じています。例えば、開会式の内容や運営スタッフの指示、競技の時に名前を呼ばれてもわからない等と不安がいっぱいです。大会の運営組織はきこえない選手が参加したときは、情報保障や配慮を行ってください。また、大会出場申込書に「配慮してほしいこと」という欄を設けてみてはどうでしょうか?



学校体育や部活動に参加したときは?

きこえない学生もスポーツを楽しめる環境を

きこえない学生が体育授業や部活動に参加をするときに困る場面の一つがミーティングです。特に団体競技では、ミーティングで戦略等の指示を受けたり、チームメイト同士で話し合います。

しかし、きこえないとついていけなかったり、また意図をつかむことができません。



これでは楽しいスポーツも、きこえない学生にとっては苦痛なものになってしまいます。

ホワイトボードを使い、指示の内容を具体的に文字にする等、視覚的な方法できちんと伝わるようにすることが大切です。

の未来のために

きこえない選手の競技力向上のために

指導の際には視覚的な工夫を

実は、競技力向上に音が大きな役割を持っていることが多いのです。例えばプロ野球選手は「打球音は次のプレーにすぐ移るときの大きな判断となる」、「バットが風を切る音で自分のスイングの善し悪しがわかる」といいます。

競技中に発生する音は競技力の向上に欠かせない重要な情報です。それがきこえないということは競技力向上の壁となります。きこえない選手に指導する際には、スマホやタブレット等で動画を撮影して、それを見せながら指導する等、視覚的な工夫が必要です。



指導するときに気をつけたいことは？

動作と説明はそれぞれ区切って 交互にしましょう

コーチが指導する際、実際に実演しながら説明をすることがあります。しかし、動作と説明が同時だと、きこえない選手はどちらを注意してみればよいのかわからず理解できないまま終わってしまいがちです。

指導の意図が伝わっていないと、競技力向上につながりません。

まず、説明を文字や図で示し、次に動作を実演して見せる、そしてまた文字や図で説明をするというように、動作と説明は区切って交互に行うと良いでしょう。



きこえない選手が研修に参加するときは？

手話言語通訳や要約筆記を配置してください



競技選手は健康管理やアンチ・ドーピング規定、ドーピング予防の知識を学ぶことが必要となります。特に、市販の風邪薬や花粉症の薬、サプリメントに禁止物資が含まれていることを知らずに飲んでしまう「うっかりドーピング」はとても怖いものです。競技選手のために、さまざまな研修が行われていますが、情報保障(手話言語通訳や要約筆記等)がないと、きこえない選手は研修の内容を理解することは極めて困難です。きこえない選手が研修を受けるときは、情報保障環境を十分に整えてください。

デフスポーツの発展のためには？

きこえない指導者を育てましょう

障害のある指導者が同じ障害のある選手を指導することは、ピアサポートの観点から見ても効果が高いのです。競技指導者の世界でも、ようやく少しずつですが、一般の競技指導者の資格を持つきこえない指導者が増えています。

指導者、コーチ、スポーツ栄養士、スポーツトレーナー等の資格を取るために講習や認定試験の受験が必要となります。きこえない人がこれらの資格を取得するために講習や試験を受けるときは、情報保障の配慮をしてください。

指導者講習会での手話言語通訳

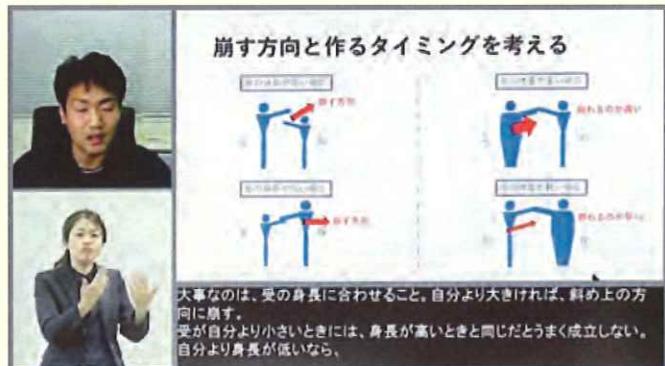
日本障がい者サッカー連盟(JIFF)による手話言語通訳費用補助制度

JIFFでは、きこえない人・きこえにくい人がサッカーやフットサルの指導者講習会へ参加できるようにするために、講習会の主催者に対する手話言語通訳者費用を補助する制度を2018年から設けています。きこえない人が手話言語通訳者を連れていくのではなく、「主催者側で手話言語通訳を手配すること」を補助することで、意識付けを持たせる役割も持たせています。障害のある人があらゆる場面でスポーツに参加しやすくなるという意味でもとても良い事例です。制度の資金は寄付金で賄われています。

オンライン研修のときはどんな配慮を?

きこえない人が参加していることを 念頭に入れましょう

オンライン会議ツールを活用した研修にきこえない人が参加するときも、情報保障がもちろん必要です。そのときは、オンライン研修の画面を工夫して見やすくしましょう。例えば、画面に講師、資料、手話言語通訳、要約筆記の4画面を表示する、その際には手話言語通訳と要約筆記の画面は並べて配置すると、きこえない人にとっては視線の移動が極力少なくて済みます。また、講師も手話言語通訳や要約筆記のスピードを考慮し、ゆっくり話すよう、心がけましょう。



指導のとき、 手話言語通訳者がいれば大丈夫?

より良い手話言語通訳を行うために 十分な打ち合わせを

指導の際、手話言語通訳者がいると、きこえない選手への指導の効果が高まります。手話言語通訳者は指導者のそばにつき、指導者の指示や説明を通訳したり、指導者が実演をするときは、通訳者も一緒に動きながら通訳をします。

そのときに気をつけなければならないのは、競技ルールやテクニック、戦術等の難しい言葉を通訳するために、手話言語通訳者もこれらのこと理解しておく必要があります。

指導者は手話言語通訳者と十分に時間を取り、打ち合わせをしてください。



手話表現をしてみよう!

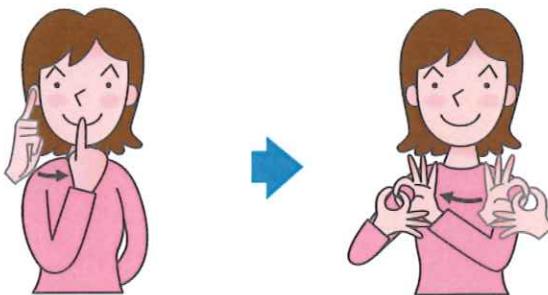
デフリンピック コラム

この冊子に出てくる代表的な言葉の手話表現を紹介します。

デフリンピックA

国際手話で使われている
'デフ'と'オリンピック'を
組み合わせた表現です。

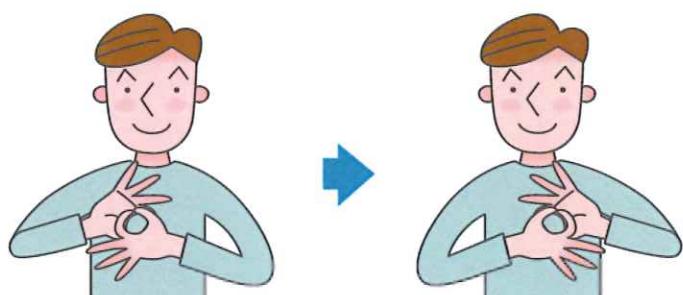
人差し指を立てた右手を耳、
口の順にあて、2指の輪を
交互に結び合いながら横に動
かす



デフリンピックB

デフリンピックを主催する
国際ろう者スポーツ委員会
(ICSD)で使われている表現
です。

両手2指で輪をつくり、輪を
向かい合わせるようにして
交互に2回つける。



にほん【日本】

弓なりになった日本列島の
形を表しています。

両手の親指と人差し指を
つき合わせ、左右に開き
ながら閉じる。



せんしゅ【選手】

腕を軽くはたいて腕前を見
せるさまを表しています。

左こぶしの甲に親指を立
てた右手を軽くかすめる
ように当て、上にあげる。



スポーツ

運動競技全般の総称です
が、走るさまで'スポーツ'
を表します。

指先を前に向けて向い合
せた両手を交互に前に出
すように回す。



おうえん【応援】

旗を振って応援するさまを
表わしています。

両こぶしを握り、旗のつ
いた棒を左右に振るよう
にする。



国内にあるデフスポーツ団体一覧

一般社団法人日本デフ陸上競技協会

一般社団法人日本デフバドミントン協会

特定非営利活動法人日本デフバスケットボール協会

一般社団法人日本デフビーチバレー協会

一般社団法人日本ろう者ボウリング協会

一般社団法人日本ろう者自転車競技協会

一般社団法人日本ろう者サッカー協会

特定非営利活動法人日本デフゴルフ協会

一般社団法人日本ろう空手道協会

日本デフオリエンテーリング協会

一般社団法人日本ろう者スキー協会

※アルペンスキーチーム、アルペンスノーボードチーム、

スノーボードフリースタイルチーム、

クロスカントリースキーチーム、カーリングチーム

ジャパン・デフ・アーチェリークラブ

一般社団法人日本ろう野球協会

日本ろう者ソフトボール協会

一般社団法人日本ろう者水泳協会

一般社団法人日本ろうあ者卓球協会

一般社団法人日本ろう者テニス協会

一般社団法人日本デフバレー協会

特定非営利法人全日本聴覚障害スキー指導員会

一般社団法人日本デフサーフィン連盟

特定非営利活動法人日本聴覚障がい者ラグビーフットボール連盟

一般社団法人日本ろう者柔道協会

一般社団法人日本デフセーリング協会

デフスポーツ
団体サイトのURL

<http://www.jfd.or.jp/sc/sportsassoc>

一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会

〒162-0801 東京都新宿区山吹町130 SKビル8階

TEL.03-3268-8847 FAX.03-3267-3445

E-mail jfd-sc@jfd.or.jp URL <https://www.jfd.or.jp/sc/>



- 【参考】
- ・門脇翠(2017):聴覚障害のある競技者とスポーツとの関わり—デフスポーツに対する意識変容過程に着目して—,平成28年度筑波大学人間総合科学研究科体育学専攻修士論文
 - ・榎本優子(2014):聴覚障害が陸上競技のパフォーマンスに及ぼす影響について,平成25年度筑波大学体育専門学群卒業論文
 - ・中島幸則・桜庭景植・笠井美里[他]・竹腰英樹・金玉蓮・加我君孝(2010):成人先天性聴覚障害者の平衡機能と視機能の評価,日本臨床スポーツ医学誌, 18(2), 297-304
 - ・齊藤まゆみ(2011):聴覚障害者の体力・運動能力と視機能,障害者スポーツ科学, 9(1), 3-14
 - ・砂田武志(2000):ろう者とスポーツ,現代思想編集部,青土社, 152-155



『デフリンピック マーク』

「手話言語」「ろう文化」「結束と継続」といった
強いメッセージを表現しています。
またロゴマークの中央は「目」を表し、
ろう者が視覚中心の生活を営んでいることを
示しています。

このパンフレットは、スポーツ庁委託事業「令和3年度障害者スポーツ推進プロジェクト」
(障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業)により作成しました。

デフスポーツ団体ガバナンスコード自己評価状況(2022年2月時点)

点数について<対応済…3点、2022年度末までに対応…2点、未定(2023年度以降の対応、検討中、具体的なスケジュールが未定)…1点>

1.8点以下…水色、2.5点以上…オレンジ

審査項目 通番号	原則	審査項目	陸上	パド	ピーチバレー	ボウリング	ゴルフ	自転車	サッカー	柔道	水泳	テニス	卓球	バレー	スキー	進捗平均
1	【原則1】組織運営等に関する基本計画を策定し公表すべきである	(1)組織運営に関する中長期基本計画を策定し公表すること	3	2	2	2	1	1	2	2	3	2	3	3	3	2.2
2		(2)組織運営の強化に関する人材の採用及び育成に関する計画を策定し公表すること	3	2	2	2	1	1	2	2	2	1	3	1	1	1.8
3		(3)財務の健全性確保に関する計画を策定し公表すること	3	3	2	2	1	1	2	2	3	3	3	1	2	2.2
4	【原則2】適切な組織運営を確保するための役員等の体制を整備すべきである。	(1)組織の役員及び評議員の構成等における多様性の確保を図ること ①外部理事の目標割合(25%以上)及び女性理事の目標割合(40%以上)を設定するとともに、その達成に向けた具体的な方策を講じること	3	1	1	1	1	1	1	1	3	1	2	1	2	1.5
5		(1)組織の役員及び評議員の構成等における多様性の確保を図ること ②評議員会を置くNFにおいては、外部評議員及び女性評議員の目標割合を設定するとともに、その達成に向けた具体的な方策を講じること	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6		(1)組織の役員及び評議員の構成等における多様性の確保を図ること ③アスリート委員会を設置し、その意見を組織運営に反映させるための具体的な方策を講じること	3	3	2	2	1	3	2	1	3	1	3	3	3	2.3
7		(2)理事会を適正な規模とし、実効性の確保を図ること	3	3	3	2	1	3	2	3	3	1	3	3	2	2.5
8		(1)組織の役員及び評議員の構成等における多様性の確保を図ること ③アスリート委員会を設置し、その意見を組織運営に反映させるための具体的な方策を講じること	3	2	1	1	1	3	2	1	3	2	3	1	2	1.9
9		(3)役員等の新陳代謝を図る仕組みを設けること ②理事が原則として10年を超えて在任するがないよう再任回数の上限を設けること	3	2	1	1	1	3	2	1	3	2	3	1	2	1.9
10		(4)独立した諮問委員会として役員候補者選考委員会を設置し、構成員に有識者を配置すること	3	3	1	1	1	1	1	1	2	1	3	1	2	1.6
11	【原則3】組織運営等に必要な規程を整備すべきである。	(1)NF及びその役職員その他構成員が適用対象となる法令を遵守するために必要な規程を整備すること	3	3	3	1	1	3	2	3	3	1	3	3	3	2.5
12		(2)その他組織運営に必要な規程を整備すること ①法人の運営に関して必要となる一般的な規程を整備しているか	3	3	3	1	3	3	2	3	3	1	3	3	2	2.5

13	(2)その他組織運営に必要な規程を整備すること ②法人の業務に関する規程を整備しているか	3	3	3	1	1	3	1	3	3	1	3	3	2	2.3	
14	(2)その他組織運営に必要な規程を整備すること ③法人の役職員の報酬等に関する規程を整備しているか	3	3	1	3	1	3	2	3	3	1	3	3	3	2.5	
15	(2)その他組織運営に必要な規程を整備すること ④法人の財産に関する規程を整備しているか	3	3	3	1	1	1	2	1	3	1	3	1	2	1.9	
16	(2)その他組織運営に必要な規程を整備すること ⑤財政的基盤を整えるための規程を整備している	3	3	2	1	1	1	2	1	3	1	3	3	2	2.0	
17	(3)代表選手の公平かつ合理的な選考に関する規程その他選手の権利保護に関する規程を整備すること	3	3	3	1	1	3	2	3	3	3	3	3	3	2.6	
18	(4)審判員の公平かつ合理的な選考に関する規程を整備すること	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
19	(5)相談内容に応じて適切な弁護士への相談ルートを確保するなど、専門家に日常的に相談や問い合わせをできる体制を確保すること	3	3	3	1	1	3	2	3	3	1	3	3	3	2.5	
20	[原則4]コンプライアンス委員会を設置すべきである。	(1)コンプライアンス委員会を設置し運営すること	2	3	3	2	1	1	2	1	3	1	1	3	3	2.0
21		(2)コンプライアンス委員会の構成員に弁護士、公認会計士、学識経験者等の有識者を配置すること	2	3	2	2	1	1	3	1	3	1	1	1	3	1.8
22	[原則5]コンプライアンス強化のための教育を実施すべきである	(1)NF役職員向けのコンプライアンス教育を実施すること	3	3	2	1	1	3	2	1	3	2	2	1	2	2.0
23		(2)選手及び指導者向けのコンプライアンス教育を実施すること	3	2	2	1	3	3	1	1	2	2	3	3	3	2.2
24		(3)審判員向けのコンプライアンス教育を実施すること	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
25	[原則6]法務、会計等の体制を構築すべきである	(1)法律、税務、会計等の専門家のサポートを日常的に受けることができる体制を構築すること	3	3	3	3	1	1	1	1	3	3	3	3	3	2.4
26		(2)財務・経理の処理を適切に行い、公正な会計原則を遵守すること	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2.8
27		(3)国庫補助金等の利用に関し、適正な使用のために求められる法令、ガイドライン等を遵守すること	3	3	3	3	3	3	1	3	3	3	3	3	3	2.8
28	[原則7]適切な情報開示を行うべきである。	(1)財務情報等について、法令に基づく開示を行うこと	3	3	3	3	3	1	3	3	3	2	3	3	2	2.7
29		(2)法令に基づく開示以外の情報開示も主体的に行うこと ①選手選考基準を含む選手選考に関する情報を開示すること	3	3	3	2	1	3	2	3	3	1	3	1	3	2.4
30		(2)法令に基づく開示以外の情報開示も主体的に行うこと ②ガバナンスコードの遵守状況に関する情報等を開示すること	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
31	[原則8]利益相反を適切に管理すべき	(1)役職員、選手、指導者等の関連当事者とNFとの間に生じ得る利益相反を適切に管理すること	3	3	3	1	1	2	2	1	3	3	3	3	2	2.3

32	である	(2)利益相反ポリシーを作成すること	3	3	2	1	1	2	2	1	3	1	3	3	2	2.1
33	「原則9】通報制度を構築すべきである	(1)通報制度を設けること	3	3	2	1	1	3	2	3	3	1	3	3	3	2.4
34		(2)通報制度の運用体制は、弁護士、公認会計士、学識経験者等の有識者を中心整備すること	3	3	3	1	1	1	3	3	3	1	1	3	2	2.2
35	【原則10】懲罰制度を構築すべきである	(1)懲罰制度における禁止行為、処分対象者、処分の内容及び処分に至るまでの手続を定め、周知すること	3	3	2	2	1	3	2	3	3	1	3	3	3	2.5
36		(2)処分審査を行う者は、中立性及び専門性を有すること	3	3	3	3	1	1	3	3	3	1	1	3	3	2.4
37	【原則11】選手、指導者等との間の紛争の迅速かつ適正な解決に取り組むべきである。	(1)NFIにおける懲罰や紛争について、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構によるスポーツ仲裁を利用できるよう自動応諾条項を定めること	3	3	3	3	1	3	2	3	3	1	3	3	3	2.6
38		(2)スポーツ仲裁の利用が可能であることを処分対象者に通知すること	3	3	3	3	1	3	2	3	3	1	3	3	3	2.6
39	【原則12】危機管理及び不祥事対応体制を構築すべきである。	(1)有事のための危機管理体制を事前に構築し、危機管理マニュアルを策定すること	3	2	3	1	1	1	1	1	3	1	2	2	3	1.8
40		(2)不祥事が発生した場合は、事実調査、原因究明、責任者の処分及び再発防止策の提言について検討するための調査体制を速やかに構築すること ※審査書類提出時から過去4年内に不祥事が	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
41		(3)危機管理及び不祥事対応として外部調査委員会を設置する場合、当該調査委員会は、独立性・中立性・専門性を有する外部有識者(弁護士、公認会計士、学識経験者等)を中心に構成すること ※審査書類提出時から過去4年内に外部調査委員会を設置した場合のみ審査を実施	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
42	【原則13】地方組織等に対するガバナンスの確保、コンプライアンスの強化等に係る指導、助言及び支援を行うべきである。	(1)加盟規程の整備等により地方組織等との間の権限関係を明確にするとともに、地方組織等の組織運営及び業務執行について適切な指導、助言及び支援を行うこと	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
43		(2)地方組織等の運営者に対する情報提供や研修会の実施等による支援を行うこと	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
進捗平均			2.94	2.78	2.42	1.72	1.33	2.17	1.97	2.08	2.92	1.56	2.69	2.42	2.50	2.27